

### 「増毛」望みフサフサに？ 小樽・毛無山展望所

小樽市と後志管内赤井川村を結ぶ国道393号が通る毛無山（548㍍）。つづら折りの道路がドライバー泣かせの峠だが、標高470㍍にある展望台（同市天神4）からは眼下に小樽市街のほか石狩市まで見渡せる大パノラマが広がる。

遠景に留萌管内の増毛連山がある。この時期、青色に染まる石狩湾と山の残雪のコントラストが美しい。ここ「毛無」は「増毛」を望めるといふことで、頭髮が気になる人にとっては縁起の良い場所なのだろう。渡良管内木下町から夫婦で訪れた自営業北島孝雄さん（64）は「しゃれたことを言うもんだ」と笑った。

小樽市総合博物館の石川直章館長によると、毛無の語源で有力な



毛無山展望所から望む増毛連山（右奥）

のは二つ。「平ら」を意味するアイヌ語説。そしてニシン漁が盛んだった江戸時代以降、ニシンの脂を搾って肥料を作る際の燃料として大量の木を伐採し、はげ山にな

ったという日本語説だ。

植林のかいあって峠は今、緑深い森に。山肌も地肌もケアが大切だと、この峠は教えてくれるかもしれない。（長峯亮）

道央圏の眺望スポットを紹介する特集の2回目は「自然の魅力」編。新緑まばゆい野山や広大な海原が織りなす絶景とともに、それぞれの場所にあつまる話題も人々を引きつける。



日本海に沈む大きな夕日を堪能できる厚田公園展望台



### プロポーズ 夕日で演出

石狩・厚田公園展望台

眼下に広がる雄大な日本海の水平線に、雲の切れ間から顔を出したオレンジ色の日がゆっくりと沈む。辺りをあかね色に染め、恋人たちの語り合いの場をロマンチックに演出する一。

石狩市厚田区の国道231号沿いの厚田公園展望台・恋人の聖地。愛を誓い、プロポーズするのにふさわしい観光スポット100選に、道内では初めて2006年に選ばれた。標高87㍍の小高い丘に立ち、1992年の建築。欧州の古城のような雰囲気漂わせる。

展望台が立つ厚田公園内には、18年度に「道の駅あったか・あいろーど（仮称）」がオープン予定で、今夏から造成工事に入る。このため、5月いっぱいだったん、展望台への立ち入りはできなくなる。

ただ、この夕日の絶景は、国道沿いや、近くの「あいロード夕日の丘観光案内所」などからも望める。石狩市厚田支所の角田誠二さん（41）は「厚田漁港では旬の魚介類を直売する朝市も毎日開いている。ぜひ足を運んで」とPRする。（成田智加）

マオイ文学台に立つ「馬追原野」の文学碑



### そびえ立つ開拓の象徴

空知管内長沼町・馬追丘陵のマオイ文学台

空知管内長沼町の中心部から車で10分。馬追（まおい）丘陵の山道を抜けると、マオイ文学台にたどりつく。高さ約220㍍。眼下には長沼の農地と市街地、遠くには札幌ドームや樽前山を見渡せ、視界が良ければ日本海を望むこともできる。

文学台には、岩見沢出身の辻村もと子の小説「馬追原野」の文学碑が立つ。長沼開拓90年を記念し1972年に建立。高さ約4㍍の碑の先端は、開拓の象徴ともいえる斧（おの）、鋤（すき）をイメージしてい

る。小説は、長沼の開拓に挑んだもと子の父親を描き、第1回樋口一葉賞を受賞した。今年、もと子の生誕110年・没後70年に当たる。

キャンプの途中に家族5人で立ち寄った札幌市の自営業藤本洋平さん（35）は「思っていたより見晴らしが良く、気分がいいですね」と笑顔を見せる。景色を楽しむため、町民グループが設置した山名表示板がある。夕日に染まる絶景もおすすだ。東7線北10。問い合わせは長沼町教委 ☎0123・88・2111へ。（田中雅章）